



ASSESSMENT OF TECHNOLOGY
FOR BUILDING CONSTRUCTION
GBRC FOUNDATION

GBRC 性能証明 第10-15号

建築技術性能証明書

技術名称：ジャスティス工法
－回転貫入鋼管杭工法－

申込者：ジャストトレーディング株式会社 代表取締役 橋本 泰雄
東京都墨田区両国四丁目 37 番 3 号 両国イーストビル 5F
(本技術の開発は、富士基礎コンサルタント株式会社と共同で行われたものである。)

技術概要：本技術は、細径鋼管に円形拡翼板、推進翼および掘削刃を一体とした特殊部品を溶接接合したものを回転させることによって地盤中に貫入させ、これを杭として利用する技術である。

開発趣旨：本工法は、先端翼付き杭の支持力の増大と施工性の向上を意図して開発したものである。本工法に用いる鋼管杭は、受け鋼管を先端拡翼に鉛直接合することで、従来の軸鋼管側面に拡翼を取り付けた杭に較べて先端拡翼部の剛性を高くでき、かつ、施工に際し杭先端地盤を乱すことが少ない。さらに、独自形状の推進翼と側面掘削刃を装備することで、施工時の貫入性の向上を図っている。

当財団の建築技術認証・証明事業実施要領に基づき、上記の性能証明対象技術の性能について、下記の通り証明する。

平成 22 年 8 月 3 日

財団法人
理事長



日本建築総合試験所
辻 文 三

記

証明方法：申込者より提出された下記の資料により性能証明を行った。

資料①：性能証明のための説明資料

②：設計・製造・施工基準

③：载荷試験資料

資料①には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した説明資料がまとめられている。資料②は、本工法の設計・製造・施工基準であり、設計フロー、支持力算定式などの設計方法の他、使用材料、杭の製造方法及び品質管理方法、施工方法および施工管理方法が示されている。

資料③には、資料①で用いた個々の载荷試験結果報告書や立会施工試験報告書などが取りまとめられている。

証明内容：本技術についての性能証明の内容は、鉛直支持力についてのみを対象としており、以下の通りである。

申込者が提案する「ジャスティス工法 製造・施工基準」に従って製造・施工された鋼管杭の鉛直荷重に対する許容支持力を定める際に必要な地盤の極限鉛直支持力は、設計基準に定めるスウェーデン式サウンディング試験の結果に基づく支持力算定式で適切に評価できると判断される。

建築技術性能認証委員会委員

委員長	松井千秋	九州大学	名誉教授
副委員長	窪田敏行	近畿大学理工学部	特任教授
委員	伊藤淳志	関西大学環境都市工学部	准教授
”	内田直樹	(財)熔接研究所	理事
”	大野義照	大阪大学	特任教授
”	金子佳生	京都大学大学院工学研究科	教授
”	桑原進	大阪大学大学院工学研究科	准教授
”	甲津功夫	大阪大学	名誉教授
”	小林克巳	福井大学大学院工学研究科	教授
”	菅野俊介	広島大学	名誉教授
”	鈴木祥之	立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構	教授
”	田才晃	横浜国立大学大学院工学研究院	教授
”	田中哮義	京都大学防災研究所	教授
”	田中剛	神戸大学大学院工学研究科	准教授
”	谷川恭雄	名古屋大学	名誉教授
”	富永晃司	広島大学	名誉教授
”	中塚侑	大阪工業大学工学部	教授
”	平石久廣	明治大学理工学部	教授
”	三谷勲	神戸大学	名誉教授
”	南宏一	福山大学工学部	教授
”	山崎雅弘	岡山理科大学総合情報学部	教授
”	井上一朗	(財)日本建築総合試験所 試験研究センター	センター長
”	益尾潔	(財)日本建築総合試験所 試験研究センター	審議役
”	永山勝	(財)日本建築総合試験所 試験研究センター	部長

ジャスティス工法 一回転貫入鋼管杭工法— 評価専門委員会委員

主査	伊藤淳志	関西大学環境都市工学部	准教授
委員	下平祐司	(財)日本建築総合試験所 試験研究センター	室長